

神高池 (かんだかいけ)



諸元

貯水量	85.4 千m ³
満水面積	3.2 ha
受益面積	30.0 ha
堤高	7.1 m
堤長	245 m

盆栽の町である鬼無町にある神高池は、^{かつがやま}勝賀山と^{ふくろやま}袋山を結ぶ尾根の懐に位置し、谷側部分に堤を作った「谷池」です。二つの大きな谷水を受けて30haの農地を潤しています。ただ、盆栽・植木への送水が中心で、稲の作付けは1~2haにすぎません。

池の北西隅に古墳時代後期に主流となった横穴式石室の基底石が残されています。普段は水没していますが、低水位時には姿を現し、近くで見ることができます。また、池の西側には古宮神社古墳を始め、規模の大きい横穴式石室の古墳10数基が確認され、神高古墳群といわれています。

神高池築造の由来や時期はよく分かっていませんが、「^{かみかさいむらし}上笠居村史」(昭和27年)に掲載されている「今安家伝説」に神高池の記述があるので紹介します。「樋上に組頭をしていた農家今安家があった。池を作るため、^{ふしんぶぎょう}普請奉行がこの家に滞在した。今安家には一人の美しい娘がいた。奉行は娘と恋仲になり、予定以上の日数が延びた。そして、今安家のために特に水利の便を計って工事をした。土地の人は、この娘と奉行の仲をうらやんで”池を築きたや神高池が、宿がとりたい今安へ”と歌って伝えている。」



神高池



横穴式石室の基底石